

令和5年度 第一回燕市総合教育会議 会議録

1 日 時 令和5年7月26日(水) 午後3時15分～午後5時00分

2 開催場所 会議室301

3 出席者の氏名

市 長 鈴木 力

教育委員会

教 育 長 小林 靖 直

教育長職務代理者 中 野 信 男

委 員 秦 久 美 子

委 員 斎 藤 純 郎

委 員 小 林 恵 子

委 員 上 田 佳 澄

4 説明のため出席した職員

教 育 次 長 岡 部 清 美 教育委員会主幹 大 森 亨

こども政策部長 白 井 健 次

学 校 教 育 課 長 和 俊 社会教育課長 石 黒 昭 彦

統括指導主事 小 池 純 一

5 事務局書記

学校教育課 大 塚 小 由 紀 他 2 名

6 傍聴人 なし

7 意見交換

(1) 「子育てするなら燕市で」と評価される施策の展開
～市長部局と教育委員会の主な事業・連携・進捗状況について～

次第 別紙のとおり (2 ページ)

意見交換 (概要) 別紙のとおり (3 ページ以降)

令和5年度
第一回燕市総合教育会議
＜次 第＞

令和5年7月26日（水）午後3時15分から
会場：会議室301

1 開 会

2 市長あいさつ

3 意見交換

（検討テーマ）

「子育てするなら燕市で」と評価される施策の展開

～市長部局と教育委員会の主な事業・連携・進捗状況について ～

4 閉 会

1. 開会宣言 午後3時15分

2. 市長挨拶

総合教育会議にご出席いただき、誠にありがとうございます。

昨年は総合計画の教育部門、教育大綱に位置づけるということで、今年度から始まる第3次総合計画の教育に関する部分の意見交換をしていただきましたが、今年度は実践が始まっておりますので、今後具体的にどうしていくかを中心に意見交換していただけたらと思います。また、「子育てするなら燕市で」をキャッチフレーズに使わせてもらっていますが、燕市の特徴である男女の出会いからのライフステージ、大学卒業まで燕市の子どもと位置づけ、しっかりと育てられていくように市は考えていきます。

3. 意見交換

(1) 「子育てするなら燕市で」と評価される施策の展開について

白井こども政策部長、大森主幹、岡部教育次長が資料説明を行い、その後に意見交換を行った。

○委員（中野委員）

読解力育成プロジェクトでコグニティブトレーニングとあるが、インターネットで調べると、発達障がい、知的障がいの子どもに対する訓練やテストと書いてあるが、この資料に書いてあるものと少し違うと思われるので、説明をしていただきたい。

○主幹

発達障がいのお子さんについての事例が多いかと思います。文章を読むうえで正しく事実を受け止めることが必要となってくるので、発達障がいがないがなくても、分野によって少し苦手なところや、時間がかかってしまう部分を補うという点で通常学級に通うお子さんについても有効と考えている。

○委員（中野委員）

インターネットで調べると、大きい都市で、発達障がい知的障がい児童への取り組みがあるようだが、燕市のように一般の児童に実施した事例はあるか。

○教育長

私が勤務していた学校では中学校で取り組んでいて、かなり成果が上がったということで、予算をつけていただいた。コグニティブとは認知機能を高めるトレーニングで、一日2、3分でできるもの。もともと燕市長善タイムでやっていた脳トレ、脳活のようなものだが、推論する、読む、計算するなどひとつひとつの認知機能にコミットしたトレーニングを体系的につくっていく。最初は特別支援の教育から入っていったが、人間誰しも得意不得意があるというところを、小さい頃からちょっとずつ慣らしていくということで、認知

機能を高めていって読解力につなげていこうと始めたものである。

燕市では特別支援学校のお子さんや1、2年生はオンラインでできるようなものを、3年生以上（中学生も含め）は紙で燕長善タイムや教科の隙間時間を利用して取り入れている。私自身、中学校の現場に行った際に、読む力、計算力が高まったと感じた。

○委員（中野委員）

十分、理解できた。

○委員（上田委員）

産後ケア事業の中で特色のある取り組みはあるか。市町村で取り組んでいるのかは不明だが、親子の絆を深める第一歩として、ベビーマッサージを取り入れているところもあるようだ。

○こども政策部長

燕市として特色のある取り組みについて、現在は行っていないが、出産後体調を整え、子育てに順調にスムーズに移行してもらえるように、産院と連携しながら産後ケアの周知、情報提供を中心に行っている状況。貴重な情報をいただいたので、今後の参考にさせていただく。

○委員（上田委員）

スケートボード場の通称があると良いのではないかと考えるが、市長の考えはあるか。

○市長

ネーミングライツを考えているが、スケートボード場だけではなく、スポーツランド燕全体で検討中である。また、全天候型遊戯施設にネーミングライツを取り入れるよう進行中である。

○市長

チャットGPTについて、燕市の学校ではどのようにしたら良いか意見を伺いたい。

○委員（中野委員）

私は使用していて、とても便利だと思う。講演の資料を作成するのに、テーマを与えるともAIが一般的なものを作ってくれる。一般的な構成はよくできているが、平均的な答えで個性や倫理観は不安定で、過去にないことは出てこない。ルーティンワークには有効だと考える。

○市長

市役所に導入すれば、すごく効率は上がると想像はできる。良い悪いが判断できる人が使うにはいいが、それを鵜呑みにしたりすることの危険性とか、小さい頃からそれに慣れ

てしまうと、成長を止めたり、自分で考える能力が退化してしまうのではないかと。

○委員（中野委員）

正しいかどうかの判断は必要。個性を出していくためには、自分の個性は何だろうと考えながらチャットしていかなければならない。

○市長

そのように扱える人は良いが、小学校のうちから当たり前機械がやってくれるということになってしまうと人類はきっと大変なことになっていく。パソコンが普及し書くことをしなくなってから、漢字を読むことはできるが、書くことができなくなってしまった。役所の職員も導入せざるを得なくなってくると思うが、まずは自分で原案を考え、考えるプロセスの中で企画力を高められると思っている。その場限りの仕事はできるが10年後どうなるのか不安がある。今のところ反対はしないが10年後人間の能力は落ちてしまうのではないかと。

○委員（中野委員）

パソコンが普及した時も人間が退化するのではないかと saying していたが、使いこなすための能力、個性とともに使いこなすことが重要だと考える。

○市長

私が言いたいことは、創造力。これから個性を創っていく過程の中で GPT に浸かって大丈夫なのか。GPT を使うのであれば、また別に個性を磨くようなこともしっかりと用意していかなければならないのではないかと。これからの社会の重要なテーマになってくると思う。

○委員（秦委員）

小学校の先生がチャット GPT を使うニュースを見た。子どもたちに使い方を学んだことで、ただチャットを使って答えを出す道具として使用するのではなく、新しい考えは考えさせることで、人の仕事の助けや、時間短縮につながるということがわかるのではないかと。学校の先生がお便りを作るのにも活用されていると聞いた。便利な使い方ができれば良いのではないかと。燕市の授業にも取り入れていければ、子どもたちもどんどん伸びていくのではないかと。

○委員（小林委員）

チャット GPT が出現したことで、「英語教師は必要ないのでは？」と考え自信をなくしたある教師の授業を参観した。先進的に新しい授業に取り組み試行錯誤した末の悩みであった。チャット GPT は子どもの成長に合わない英語を提示してくることが多々ある。その英語を鵜呑みにするのではなく、学年や習熟度に合わせたヒントを与えて、子どもたち自身に適する英語表現を考えさせていくのが教師の役割だと考える。学校現場でのチャット

GPT の安易な使用は考える力を育てることにつながらない。導入前に工夫が必要だと思う。

○教育長

文科省の指針が今後出てくる予定で、創造力、自ら動き出すとか最終的には判断力を育てるためのひとつの教材として使えるということになると思う。作文、感想文、レポートなど、少なくとも小中高生へそれをしてはいけないというのは、はっきり出すとは言っている。チャット GPT は正解を求めていなく、らしさを出すもの。間違いもたくさんあるので、間違い探しの教材としても良いと思う。

○市長

大学生は絶対に使うと思う。

○委員（斎藤委員）

チャット GPT に答えを求めるような使い方だと、その場しのぎで本当に自分の力にならないと思う。機械に任せれば簡単に原案を作ることができるかもしれないが、時間がかかるし面倒かもしれないが自分で考える過程にこそ創造力を高める基本があると思う。

○委員（中野委員）

企業で AI を使って成功している事例として、市役所でも意見など FAX、メール、手書きの文章（縦書き横書きもある）で来ると思うが、それを読み込んでワードに変換する機能であったり、それを一覧表にまとめる機能は便利。また正解は 90%近い。

○市長

そういう機能は RPA などであると思う。業務改善的なところは取り入れたほうが良いが、創造性が求められている大学のゼミの論文などは生かせないのではないかな。

○委員（中野委員）

AI は意見をまとめる力もすごい。市議のいろいろな意見をまとめるのも分かりやすい。企業で使うと、発注書などをまとめて、注文の傾向がわかるので、どの商品に力を入れるかなどの対策ができるので、企業にとっては有難い。

○委員（斎藤委員）

令和 5 年度の子育て支援施策の新規と拡充、これ以外もライフステージに応じて、それぞれの確かな事業になっているのがよくわかる。その中でプレコンセプションケア事業の新規事業を、地域振興課事業のライフデザインセミナーの一環として実施するという一方で、ぜひ成果が上がるように願っている。ファイナンシャルプランナーがきてライフステージに応じた様々なことを教えていただけるということだが、高校三年生だけでなく、小中学生にも広げてほしい。働くことの意義、職業選択の意識を小さい頃から持ってもらうことが必要なのではないかと考える。ゆめみらいスポーツ教室について、スポーツ分野だけでなく、他の分野についても夢を持ってもらえるような取り組みを教育委員会として行って

いただきたい。STEAM 教育の成果も出してほしい。おはようタイムや長善タイムも継続してもらい、能力を開花してほしい。スポーツ大会に出るだけではなく、体を動かすことに親しんでもらい運動の楽しさを伝えてほしい。それには総合型スポーツクラブが重要な役割を果たしてくれると思う。保護者の方からもご理解を得て、創造力をもつ子どもが育っていくことを願っている。そして、何より「子育てするなら燕市で」を多くの人から知っていただくように PR に力を入れていただきたい。

○委員（小林委員）

こどもの入院医療費の全額助成について、現状はどうか。

○こども政策部長

高校卒業まで同じ医療機関で同じ病気での通院は 1 回につき 530 円を支払ってもらう。5 回目以降は無料。

○市長

医療費の無料化は他自治体と競い合いの状況で様々な議論がある。無料になるとたいしたことなくても受診するようになり、医療費に歯止めがかからなくなる恐れがあるので、やはり一定の自己負担が必要なのではないかとということ。ただ入院については本当に必要なので無料に踏み切った。

また、医療費・給食費・保育料を国で統一を図るべきと、全国知事会でも議論になっていた。保育料は未満児を無償化する動きがあるが、それにより未満児から預ける人が増え、受け入れる保育士が確保できない。燕市では、育休をとって家庭で協力し育てていただきたいと考えている。そこで育児休業制度を取りやすい補助金をつくらうと考えている。

○委員（小林委員）

私たちは子どもたちの「考える力」を伸ばすことを考えているが、中学 2 年生の家庭科の授業を見学した際、布を切るハサミの持ち方も知らない子どもがいて、年々「生活力」が下がっていることに驚いた。自分で生きていく力があるのか疑問。自分のライフプランを立てるため、子どもを産むにはきちんとした食生活が必要。家庭のあり方が変わっていて、子どもたちの「生活力」が下がっていることを非常に危惧している。

○委員（上田委員）

今の小学生の親は合理的思考が強い。親の言葉遣いをそのまま子どもが真似ているが、本当の言葉の意味を分かっていないことが多く、いじめにもつながりかねない。間違った言葉を使っている子どもに対しては、道徳教育をしたほうが良いのではないかと。言葉の使い方がわからないまま大きくなると、読解力も乏しくなっていく。低学年から対策をしたほうが良いのではないかと。

○市長

単語だけでコミュニケーションを取ろうとして、語彙力が落ちている。その理由として家庭の中で絵本の読み聞かせや会話の不足が考えられる。不登校の子どもにカウンセラーが声をかけても自分の気持ちを伝えられないから解決につながらない。自分の気持ちを表現する、相手の気持ちをくみ取することをもう一度立ち返ることが必要だと思う。つきつめると家庭教育が重要だと思う。

○委員（中野委員）

どこかで断ち切らないといけない。断ち切るにはどうしたら良いか。

○市長

こども食堂などで、親に代わってフォローを地道にやっていくことなのかなと考える。

○委員（小林委員）

こども食堂は市内で数か所あるが、ボランティアの調理で提供する形のみなのか、子どもたちも手伝っているのかお聞きしたい。

○こども政策部長

白山町みんなの食堂では、子どもも一緒に作ることもある。

○委員（小林委員）

子どもも一緒に作ることが広まると良いと思う。保護者も巻き込んで家庭を変えていく。家庭の中で会話が増えるようなきっかけを作っていく必要がある。

放課後学習教室のボランティアの謝礼を増やせないか。責任を持って一定時間任せる方には、責任の重さを考えると少ないのではないか。また、農業ボランティアの方にも謝礼があっても良いのではないか。

○委員（中野委員）

子どもを増やそうと言っているが、産科が少なくなっている心配がある。

○市長

県央基幹病院に集約してほしいと県に要望を出している。明確な回答はないが、県議会6月議会で堀県議が質問したところ、新潟大学医学部とその方向で調整中との答弁になっていた。

○教育長

斎藤委員からご指摘いただいた、総合型地域クラブについて、中学校の部活動の地域移行に向けて調整中。ゆめみらいスポーツについて、長善館学習塾やアントレプレナー、地域の方に密着して学んだり、**Jack&Betty** の講師やキャプテンミーティングを取り入れて、

憧れを持ってもらい、夢や職業選択のひとつにしてもらうなど、体系的にしていきたい。

○統括指導主事

STEAM 教育について、現在、燕中学校のコンピューター室を改装する部屋のデザインは固まりつつある。機器の搬入についても、夏休みを中心に進める予定。夏休み明け以降、最初はクラブ活動で活用して各学年のカリキュラムでどのようにできるのか、モデルになるようなことを取り組んでいく。

○教育長

認知能力だけでなく非認知能力の部分もということについて、最終的に大事なのは非認知能力だと思っている。自分をコントロールする能力、夢や目標を持つ、判断力も含めて大事。だが、認知能力がないと非認知能力まで育っていかないという部分もご理解いただきたい。コグトレは基本、低学年から慣れさせて、空間認知能力も含めて強化していくという手法なのでご理解いただきたい。初めは半信半疑だったが、実際にやったらすごく良かったので広げていきたいという声も聞いているので、現場も見ていただきたい。

○委員（上田委員）

自分を表現する能力を高めるという点で、演劇のワークショップを取り入れてはどうか。体を使って隣の人との協力、言葉の表現などもあるので、子どもにとって良いと思う。

○教育長

検討していきたい。

○市長

最後に中高生に係わる方達に読んでいただきたい、おすすめの本の紹介。

「この夏の星をみる／辻村深月」

コロナ禍の中高生にハマる感動的な話。高校に入学し、コロナで吹奏楽部の活動が中止になり、やめるか迷っていると、好きなことはずっと好きなままでよく、生活の糧は別でよい、という。コロナで出来なかったことについて、子どもと大人が向き合う話。この本を読みながら、燕市は、コロナの中で夢を諦めないということ、フェニックス 600 事業で提唱してきて正解だったと感じた。

5. 閉 会 午後 5 時 00 分